

おわりに

今年度の研究誌は、ここ数年続いた研究の内容とは一線を画す、「地域公共交通」に関する物となりました。

「はじめに」の部分でも触れられているように、近年苦境に立たされている「地域公共交通」の利用を促進するためにはどのようなことをしていけばいいのか、ということに対する議論の着地点を見出したい、という強い思いで、この研究を行う事となりました。

まず、研究誌の冒頭で、ここで取り上げる「公共交通」とは何か、ということの説明しました。その上で、日本各地の様々な地域における「公共交通」の事例を取り上げ、それぞれについて研究しました。そして、最後に、事例研究の過程で浮かび上がってきた問題点を整理し、それらを様々な視点から考察し、「地域公共交通」に関する議論を一つの結論へと着地させました。

今は、研究の目的を達成できて、清々しい気分です。今回の研究はすばらしい物になったと思います。

最後に、この研究誌を手にとって、ここまで読んで下さった読者の皆様に感謝の言葉を申しあげたいと思います。本当にありがとうございました。

そして、今回の研究に携わって下さった当会部員の一人一人に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

今年度、一橋大学鉄道研究会は創立 50 周年を迎えました。この節目の年にこのような研究が出来たことを誇りに思います。今後も当会の末永い繁栄を祈っております。

一橋大学鉄道研究会第 50 代部長

坊っちゃん